

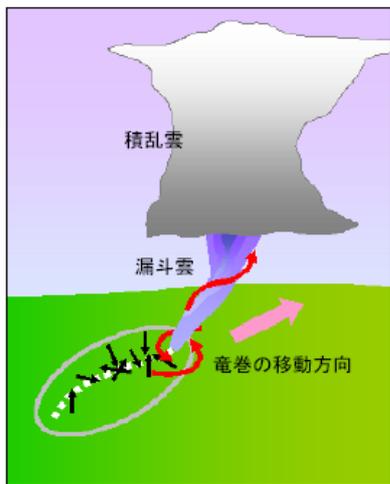
日立の気象 93

「竜巻（たつまき）災害」

今年9月17日、強い台風13号が九州に上陸、宮崎県延岡市では「竜巻」が発生し、JRの特急電車が横転するなど大きな被害が出ました。

竜巻は、積乱雲または積雲に伴って発生する鉛直軸をもつ激しい渦巻きで、しばしば漏斗状または柱状の雲（「漏斗雲」）を伴っています。また、竜巻の中心では周囲より気圧が低くなっていますので、地表面の近くでは風は渦に向かって内側に、普通は反時計回りの方向に回転しながら、らせん状に吹き込み、漏斗雲の中に急速に巻き上がっていきます。（図-1参照）

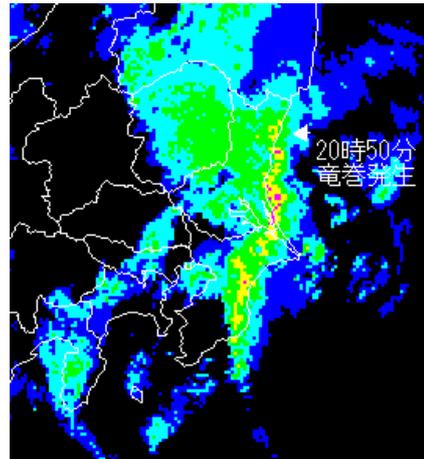
竜巻の強さの目安は F1～F5（藤田スケールという）の5段階に分けられています。F1は風速33～49 m/s、F2は風速50～69 m/sなど。



【図-1 竜巻の概念図】

1999年（平成11年）には、多賀郡十王町（現在の日立市）や高萩市で竜巻により、家屋の損壊83戸などの被害が出ました。

当日10月27日は、低気圧が発達しながら関東地方を北東に進み、21時頃には茨城県を通過、日立市役所では21時14分までの1時間で88mmという観測史上最大の猛烈な雨を観測し、市内大沼川が氾濫するなどの被害が出ました。



【図-2 気象レーダー図(20時30分)】

この竜巻は、南北に延びる巨大な積乱雲の北上に伴って海上で発生し、20時50分頃十王町鶴の岬に上陸、十王町伊師浜、伊師町、高萩市島名、秋山を南南東から北北西方向にほぼ一直線に通過しました。被害の範囲は幅40～60m、長さ約4kmに点在し、竜巻の寿命は30分程度とみられています。（図-2参照）

竜巻が通過したKDD茨城衛星通信所の風速計は、21時18分に35m/sを超える瞬間的な突風を観測しており、気象台は竜巻の強さをF1と判定しました。

十王（F1）と延岡（F2）の竜巻は、規模や大きさは違いますが、海上で発生し陸地に侵入したこと、南南東から北北西に進んだことなどの共通点がみられました。

日立の気候表

【平年値（1971～2000年）】

	10月	11月	12月
平均気温	16.6℃	11.8℃	7.2℃
降水量	159.2mm	81.2mm	31.3mm
日照時間	152.5時間	161.9時間	189.9時間

※日立市の天気予報は、天気相談所ホームページで毎日発表しています。

<http://www.jsdi.or.jp/~hctenso>

電話での問合せは、直通電話 22-5520
IP電話 050-5528-5066 へどうぞ。